

コロナ5類移行受け 岡部所長『新たな「感染防止の基本」』示す

3/15 テレビ神奈川



<https://news.yahoo.co.jp/articles/fb1639f8061fe731aa9fc873178e4c4f284ac5fd>

新型コロナをめぐり、川崎市では医療関係団体との意見交換が行われ、政府の分科会メンバーで市健康安全研究所の岡部信彦所長が「新しい生活様式」の抜本的な改正を訴えました。

岡部所長は川崎市の直近1週間の感染者数が566人と前の週までの10週連続の減少が止まり、重症の病床使用率も含め低水準ながら増加したと報告しました。

また、2020年に当時の政府の専門家会議が人との間隔を2メートル空けることなどを求めた「新しい生活様式」は、現在の状況では適当ではないと指摘。

そのうえで、新たな感染防止の基本として、体調に不安がある時などは自宅で療養することや引き続き三密の回避は有効であることなどを示しました。

さらに、マスクの着用について

「医療機関など求められる場ではできるだけ応じてほしい」

として、その場に応じた対応が必要だと訴えました。

川崎市健康安全研究所・岡部信彦所長

「5類になったから、もう注意をしなくていい感染症になったんだということではなくて、不安が最大限に持ってなくてはいけない状態ではないから、落ち着いているときは落ち着いた方がいいのではないかな。どんちゃん騒ぎでやるお花見まではまだちょっとお互いに注意をしましょう」